



沖縄高専だより

National Institute of Technology, Okinawa College



目次

1. 校長より	2	10. 2年生クラス紹介(2年生に進級して感じたこと) ..	11
2. 副校長(総務担当)・副校長(教育・入試担当)あいさつ ..	3	11. 3年生クラス紹介(3年生に進級して感じたこと) ..	12
3. 1年クラス担任からの挨拶	4	12. 学生会より	13
4. 2年クラス担任からの挨拶	5	13. 寮生会より	14
5. 3年クラス担任からの挨拶	6	14. 航空技術者プログラム紹介	15
6. 4年クラス担任からの挨拶	7	15. キャリア教育センター活動紹介	16
7. 5年クラス担任からの挨拶	8	16. 地域連携研究推進センター活動紹介	17
8. 専攻科の紹介(専攻科長からのメッセージ)	9	17. OB・OGの活躍の様子	18
9. 1年生クラス紹介(入学して感じたこと)	10	18. GEAR5.0の紹介／香仙	19



沖縄工業高等専門学校

校長 伊原 博隆
い はら ひろたか

本年度は、COVID-19の影響を受けながらも2年ぶりに入学式を開催し、また対面での授業を主体に学びの場をスタートすることができました。このように、年度始めから良いスタートが切れたのは、学生をはじめ、保護者の皆様や、後援会、沖縄高専産学連携協力会、そして本校を応援していただいている全ての皆様のご理解とご協力があってこそその結果と思っています。教職員を代表し、この場をお借りして感謝いたします。

一方、COVID-19の影響は治まることなく、沖縄県は、前学期だけでも100日を超す緊急事態宣言措置が施行され、加えて8月には沖縄県緊急共同メッセージが発出されるなど、厳しい状況が続いています。ワクチン接種が進む中、一人ひとりの自覚と適切な感染防止対策により、一丸となってCOVID-19に打ち勝ちましょう。引き続き皆様のご理解とご協力をお願いします。

このような厳しい状況下にあっても、本校は学びの高度化に向けて努力しています。教育関係では、特色ある人材育成を推し進めるため、学科横断型教育プログラムを強化しています。具体的には、航空技術者プログラムの拡充やサイバー・セキュリティ人材育成プログラムおよびIoT教育の整備、さらに健康医療産業における情報技術活用のためのバイオインフォマティクス人材育成プログラムを推進しています。このような本校独自の取り組みが評価され、本年度、航空技術者プログラムとバイオインフォマティクス人材育成プログラムの両方で第23回九州工学教育協会賞が授与されました。また、教員個々の研究力を強化し、教育研究の質向上を目指しています。その一つの指標として、文部科学省系の競争的資金（科学研究費補助金）の採択増に取り組んでおり、教員当たりの採択数や金額では、全高専中のトップクラスにまで押し上げることができました。また本年度は、「高専発！ Society5.0型未来技術人材育成事業」の拠点校として採択されており、鶴岡、長岡、和歌山、宇部の4高専と連携して、防災・減災・防疫の分野で先導研究を推進します。国際面においては、これまでは3年次編入学を中心に留学生を受け入れてきましたが、本年度より日本語教育のための部門を新しく立ち上げ、1年次留学生を受け入れるための準備を進めています。

本年は、一年越しの東京オリンピック2020の開催や沖縄本島北部の世界自然遺産登録などで大いに盛り上がりを見せています。また、課外活動が制限される中、学生達は満を持して2年ぶりの高専祭の準備を進めています。本校は、COVID-19がまん延する機会をポジティブに捉え、新たな学びの方法や社会生活のあり方と積極的に向き合い、地域と国際社会に求められる高専を目指して前進します。今後とも、皆様のご理解、ご支援のほど宜しくお願い申し上げます。



令和3年前学期が終わって ～副校長（総務担当）より～

副校長（総務担当）

まきし たかし
眞喜志 隆

今年度より、タイ赴任中の田中博教授に変わり副校長（総務担当）を担当しております機械システム工学科の眞喜志隆と申します。よろしくお願いいたします。昨年より続いている新型コロナウイルスの影響は7月末の現在も続いており、緊急事態宣言による休校措置や遠隔講義での対応、毎日の講義時間や生活時間の変更を余儀なくされております。この状況はまだまだ続くことが考えられ、コロナを学校に持ち込まない・コロナを広げないことが日々の生活では重要になります。現在本校では、全教職員と学生の出勤登校前の体温測定と健康観察の記録を取っており、コロナを持ち込まない、広げないための対応を行っておりますが、寮外に居住している学生の確認が滞りがちになります。各ご家庭での注意喚起をお願いいたします。

また、昨年度は学校として重要な行事である入学式が行えませんでした。昨年度のうちに、新入生とその保護者各位に対して入学式に変わる式典を行いたかった想いは教職員一同持っていたのですが、日程が取れず断念いたしました。今年度に入って7月27日（火）に、校長講話・同窓会会長挨拶・学生会長挨拶の形で新2年生に対しての歓迎イベントを実施いたしました。配信も一部利用しましたので音声などの乱れがありましたが、本校の歓迎の想いは伝わったかと思います。コロナの影響はまだまだ続き、本校の学校行事にも影響が出ることが予想されます。しかしながら、終わらない雨はなく、明けない夜もありません。気持ちを強く持って、日々できることを着実にやっていくようお願いいたします。



いろいろ考えよう。時間あるし

副校長（教育・入試担当）

まきし おさむ
眞喜志 治

苦しい状況が続いた一年が過ぎ、新たな気持ちで迎えた今年度でした。ワクチン接種も始まり、見通しが明るくなると思われましたが、状況は悪くなる一方で、本校にとっては二度の試験期間に大きく影響する事態となってしまいました。特に前学期期末試験は、1ヵ月近く延期となり、「徐々に上げてきたであろうモチベーションを持続できないのではないか」、「期末試験対策を再構築できないのではないか」と心配しています。一方で、学生は試験のためだけに勉強しているのではないことを改めて自覚してもらいたいと思っています。延期されたのは試験期間であり、試験勉強のタイミングであって、学ぶこと自体が先送りになったのではないことをシンプルに理解して下さい。その上で、試験直前の集中的詰め込み試験勉強で得られるものは、その時の試験の得点を伸ばすための一時的なものであって、この先も必要不可欠となる、自身に定着した知識ではないことを認識する必要があります。卒業生が一様に発する「あの時やっとけばよかった」の『あの時』とは、皆さんにとっての『今、この時』であることは言うまでもありません。

少し前までの当たり前とは異なる生活習慣や行動が求められる状況が続いていますが、学生の皆さんには、自身の可能性の広がりやを自ら妨げることのないように、自身の進化をひと休みさせることのないように行動してくれることを期待しています。制約が多いとはいえ、一人一人の学習を妨げる要因は少ないと思いますし、工夫次第でこれまでと変わらない学習環境を構築できるものと思います。むしろ、皆さんが使えるツールを駆使すれば、これまでよりもグレードアップした各自の学習環境を構築してくれるのではないかと胸躍らせているところです。「そのうち落ち着く日が来るだろう」と、あてもなくその日を待つのではなく、その時々状況を冷静かつ的確に判断し、その時々で最善を尽くすことが求められているのではないのでしょうか。

まだまだ先の見えない状況が続くと思われますが、コロナ禍を理由に、停滞することを安易に選択しないで下さい。僕自身、「教務主事」から「ごく普通の教員」にメガ進化するために、自分の可能性を広げるために、常に努力し、必ず実現できるものと信じて、そのための準備を進めているところです。学生の皆さんには、いかなる状況にあっても常に前向きであってほしいものだ強く願っています。



1年クラス担任からの挨拶

1年生



わたの だい
和多野 大

1年1組担任

1年1組担任の和多野大です。1年生と3年生・4年生のスポーツ実技と、専攻科のスポーツ科学特論を担当しています。

1組は、まじめな雰囲気。勉強はよくできるほうだし、頼んだ仕事もきっちりやってくれます。でもそれゆえに、ちょっとした笑い話への反応が、ちょっといまいかなんですよー……。個別に話すと楽しく笑ってくれるのですが、まだまだみんな、クラス全体に、気を遣っているのかな。ホームルームやスポーツ実技も、元気に明るくいきたいなー！ いつでもスライムしようね？ あ、スマイルだった！

入学から5ヶ月。中学とはまったく違う学校のシステム、そして寮生活は、新鮮味と同時に大きなストレスでしょう。新型コロナの影響でイベントがなくなっているのも、寂しいところです。変化に対応していくのは、とても大きなエネルギーを使いますが、それは成長に直結します。これからきっと、素敵な未来を創り出していける！ 後期に期待しつつ、夏休みを楽しみたいですね。今年度最後まで、よ・ろ・し・く！ (福山雅治さん風に)



かたやま あゆこ
片山 鮎子

1年2組担任

1年2組担任の片山鮎子です。専門は国語学といって、日本語の文法や言葉の歴史的な変遷を研究します。沖縄高専では国語や文学概論を担当します。今年は1年生の国語Ⅰ(通年)、3年生の国語Ⅲ(後期)、4年生の文学概論(前期のみ)、専攻科2年生の日本文化論(前期のみ)を受け持っています。

高専に入れば国語の授業がないと思っている1年生が毎年いますが、そんなことはありません。国語は授業の名前を変えながら4年生までみっちりあります。1年生から段階を踏みつつ意見文やレポートの書き方を学んでいって、最後は卒業論文を書いて卒業するまで、国語と学生は切っても切れない関係です。

実用的なメールの書き方や企画書について学習するだけでなく、きちんと文学的な内容も学びます。一般教養としての小説、詩、短歌、俳句も背景と内容を学びますし、評論や随想の構成も学びます。古典作品も日本の古文と中国の漢文を授業で扱うので、楽しみにしててください。



しょう る しん
松露 真

1年3組副担任

1年3組副担任の松露真です。担当科目は数学で、今年度は1年3組の基礎数学Ⅰ、2年生の線形代数そして創造研究を担当しています。

私が考える高専の数学で身につけてほしい力は次の3点です。1点目は自分のできることを構造化し説明できる力、2点目は確実な計算力、3点目は未知の内容でも興味をもって自分なりに考える力です。1点目が抽象的なのでさらに詳しく説明します。高専での数学は中学校までの数学と比べて内容が広く複雑になります。よって、意識的な頭の整理が必要です。具体的には、学んだことを「できること」「調べたらできること」「できないこと」の3種類に分類し、「できること」については「前提条件は何か」「その前提条件が変わったらどうなるのか」「どの定理/テクニックを使うのか」の観点から自分なりに整理してみましょう。理解が深まるとともに他の人に分かりやすく説明できるはずです。

私は中学高校と数学が苦手でした。その原因の1つは(後から振り返って考えると)この1点目ができていないことでした。授業その他で私なりの「頭の中の整理方法」を説明します。皆さんの希望にも答えますので気軽に声をかけてくださいね。



さきはら まさし
崎原 正志

1年4組担任

1年4組担任の崎原正志(さきはらまさし)です。高専に来てから4年目、担任は3年目です。授業はEnglish Comprehension (ECP) のⅠとⅢ、専攻科の琉球諸語入門を担当しています。全ての授業に関連するのは「文法」。英語に現在形eat・過去形ate・進行形eatingがあるように、琉球諸語のひとつである沖縄語にもカムン・カダン・カドーン(カローン)のように活用があります。沖縄語の過去形にはもうひとつカムタンという形があって、沖縄風に言うと「食べよった」を表します。カムタンは、誰かが食べたのを「見た」場合でないと使用できません(アイッ！ワープリンネンナトーン「俺のプリンなくなってる！」アリガカムタン「あいつが食べた(のを見た)」)。英語と沖縄語の共通点をひとつ：「今から向かうね」という時、英語ではI'm coming、沖縄語ではナマカラチュウクトゥヤー(今から来るからね)と、動詞「来る(come)」を使います。「えー、今から来るからさ～」と言われて「誰が来るの？」と思わないようにね！

2年クラス担任からの挨拶

2年生



しまじり まりこ
島尻 真理子

2年1組担任

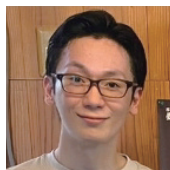
2年1組担任の島尻です。スポーツ実技IIや健康科学を担当しています。

遠隔授業が多かった昨年度を乗り越え、4月から対面授業が始まり、気付けば前期も終わり。最初の頃は、「遠隔授業がいい」って言っていたクラスも、仲間と共に授業や学級活動、休み時間など、同じ時間を過ごしていく中で、少しずつ、1つひとつの大切さを肌で感じ取りながら成長し続けた前期…だったように感じます。

そして、それぞれが異なる分野（学科）、違う夢を目指す仲間と、同じクラスで語らう時間も、折り返しとなります。

この「異種格闘技」ともいえる？沖縄高専2年1組として過ごす残りの時間、この空間を大切に、1人ひとりが目指す夢やこれから出逢う夢に向け、笑顔忘れられることなくチャレンジし続けていってほしいと、心から願っています。

そして、そのチャレンジを、微力ながら応援できればと思っています！



よし い けいすけ
吉居 啓輔

2年2組担任

クラス紹介文の執筆を引き受けてくれた学生がメールで原稿を送ってくれて、「ちゃんと忘れずに書いてくれたんだ！」と喜んで原稿を提出した時に初めて、自分も担任として書かなければいけないことを知り（締切り日に）慌てている2年2組担任の吉居です。

昨年度は新型コロナウイルスの影響により、大半が遠隔授業となってしまいましたが、今年度は対面で新学期をスタートすることができました。学生達にはマスクの着用をはじめ、食事中は黙食、グループ学習、部活動の制限など制約の多い中で本当に良く感染拡大防止に努めてくれています。本来ならもっとたくさんの学生達の表情をみることができたのと思う一方で学生達の理解と協力に、いつも感謝をしています。

今年度は担任をしているクラスの授業（微積分I）が多いので、非常に嬉しく思っています。2組の学生達も当然同じ想いでしょう。2組の学生はやや元気がない？と思っていたので、年度の頭の方で、「じゃあ、LHRで親睦レクやる？」と言って、数学の補習をやりました。でも、（もう一度）いつかやろう！

県内でもまた感染が拡大しており、学生達も不安を感じていると思います。しかし、混合学級最後のクラスなので、学生達にはコロナに負けずに楽しい思い出を沢山作って3年生に進級して欲しいと思っています。1年間どうぞよろしくお願いいたします。



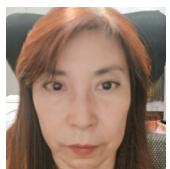
しもごおり たけし
下郡 剛

2年3組担任

2年3組担任の下郡剛です。今年度は、2年学年主任も担当しています。2年生の授業は、歴史学概論を担当しています。

4クラス全て見ていますが、印象としては、今年の2年3組は元気がない？と思っています。年度の頭の方で、「なんか、クラス元気ない？」と聞いたところ、多くの学生が頷いたため、「じゃあ、LHRで親睦レクやる？」と言って、学校内の各方面に確認を取った後、競技を決め、チーム割りまでしたのに、コロナの感染拡大にともなって、自粛要請がかかってしまいました。とっても残念でした。でも、いつかやろう！

コロナ、コロナで大変なことになってしまいましたが、多くの人にとっては、遠隔授業よりはマシなのではないでしょうか？少なくとも、メカ音痴の僕は、遠隔授業よりは今がいいです。昨年は、授業撮影後、ビデオの操作を誤って？画像がビデオから消えたことがありました。泣きそうになりましたが、「そんなわけないでしょう」と吉居先生が、ビデオの中から捜しだしてくれました。遠隔授業よりはマシだと思って、お互いなんとか今を凌ぎましょう。



あお き くみ
青木 久美

2年4組担任

2年4組担任の青木久美と申します。

今年度の2年生には、昨年度から英語関連科目を教授してきました。遠隔授業から始まった高専での勉学は、教員自身にも不慣れな点があり、とまどうことも多かったと推測されます。勉学の点ばかりではなく、入学以来、クラブ活動やグループ学習も制限され、体育祭や高専祭でクラスメートとの絆を深めることもできないなど、学生にとっては厳しい状況が続いています。しかしながら、彼らは、このような逆境に挫けることなく、明るさを失わず、自主的な学習態度を身に付けて来ました。

今後も厳しい状況は続きそうですが、この試練を乗り越えて。忍耐強く、自律的な大人に立派に成長していただきたいと思います。そのためには、ご家庭内での会話の促進など、保護者の方々のご協力をよろしくお願い致します。なお、学生には、日常生活に適度な運動を取り入れるとともに、精神的な支えが必要なときには、信頼できる教員にご相談いただくのはもちろんのこと、カウンセリングのご利用などもご検討いただきたいと思います。今後とも一層のご支援とご理解をお願いいたします。

3年学科担任からの挨拶

3年生



ま き し たかし
眞喜志 隆

機械システム工学科3年

今年度より機械システム工学科3年学科担任を担当しております眞喜志隆です。今年度はマレーシアからの留学生1名と3年次編入学生1名を加え41名（男子38名・女子3名）となっています。3学年からは専門科目も増え、内容もより専門性の高いものになるため、学期が始まってからしばらくは各学生だいが苦勞したと思います。また、緊急事態宣言のため休講措置となった影響から窮屈な行事予定や講義時間となってしまう、この点でも大変だったと思います。進路活動はまだ本格化していませんが、これまでは4年生の年明けから就職活動が始まることが多く、3年生の今は自分がどのような進路に向けて進んで行くのかを考え始める時期に当たります。各ご家庭でも進路に関して話題にさせていただきようお願いいたします。また、12月に予定されております研修旅行は、普段は見ることでできない大規模な企業見学が中心となりますが、実施に関して検討中で近日中にご連絡できると思います。まだまだ予断ができない状況が続きますが、今後ともよろしくお願いいたします。



かみさと し ほ こ
神里 志穂子

情報通信システム工学科3年

中学を卒業したばかりの幼い表情で入学式に参加していた皆さんが、沖縄高専の学生となって、もう3年目になります。遠隔授業や新しい生活様式を取り入れる事になった状況でも、確実に皆さんの心も身体も成長している事を感じて、日々嬉しく思っています。皆で、熱心に課題に取り組み、学校行事や寮生活でも先輩方と協力し運営や後輩達へ指導する姿を見るたびに、皆さんが成長している事を感じます。でも、きらきらした高校生活とは、かけ離れた学校生活、忙しい日常、たくさんさんの課題に試験、日々の授業に身が入らない事や漠然とした不安感など、楽しい事や明るい未来を想像する時間があまり無いように感じている人も多いのではないのでしょうか。ただ、そんな時間も大学受験が無い高専生がじっくり自分と向き合い、成長するための大切な時間だと考えます。自分はどうしたいのか、なぜ思うようにできないのか、不安を感じ、落ち込んで、悩んだからこそ得られる強さがあります。そうやって、皆さんの心を鍛えて下さい。話を聞いて欲しい時には、友達、先生方、保護者が皆さんの傍にいます。たまには、周りに頼る事も大事です。皆さんの人生の貴重な時に一緒に過ごせることをありがたいと思っています。担任として、私も皆さんと成長していきます。3年生の残りの時間を大切に過ごしていきましょう。



さとう たかし
佐藤 尚

メディア情報工学科3年

今年度も引き続きコロナ禍で様々なことが制限され、ストレスを感じている学生が多いのではないのでしょうか。あるいは、早くから様々なデジタル機器等に慣れ親しんでいた若い学生の皆さんであれば、ツールを駆使して遠く離れた学生同士で自由にやりとりを行い、インターネットという仮想世界をむしろ主たる活動場所と考えて、今の状況に適応している人もいるかもしれません。そのような3年生に学科担任として私からお伝えしたい大切なことが2つあります。1つは、遠隔主体の状況だからこそ、依存症を防ぐため、ゲームやインターネットは自らいつでも中断できる強い意志を持って欲しいということ。そしてもう1つは、3年生の1年間が今後のことを決定する重要なターニングポイントになるということです。4～5年生ではインターンシップに就活や受験、そして卒研があるため、自由な時間が本当に無くなります。極論すると、自由に一杯好きなことなどに没頭できる時間を確保できるのは、3年生の1年間だけということになります。この時間をボーッと過ごすか、それとも何かに一生懸命打ち込んで様々な体験・経験をするかで、仰々しい云い方をするならば、その後の人生が変わります。是非、3年生の残りの時間を有意義に使ってください。



たまき やすとも
玉城 康智

生物資源工学科3年

皆さん、高専生活の半分が経過しましたが実感はありますか？もう3年、まだ3年、様々な思いがあると思います。ご存知の通り、昨年度から新型コロナの影響で遠隔授業と対面授業を繰り返し、各種イベントの中止などにより「自粛」の期間が続いています。このような状況の中で皆さんは「目標を持ち努力を継続する」ことはできましたか？

高専3年生は進路について考える時期であり、本来であれば周りの友人との会話や行動を通して「そういう時期」と感じることができます。しかし、今はそのチャンスが減り、個々で考えなければならない状況にあるため、明確な「目標」を持たないとモチベーションの維持は難しいと思います。

私達はこの困難な状況を3年担任団が中心となり支える準備を整えています。何か問題があればいつでも声を掛けて下さい。また、後期から対面授業が再開となれば、学生同士でこれまで以上にコミュニケーションをとるよう心掛けて下さい。友人との何気ない会話から、自分の進路のヒントを得ることもあります。皆さんの頑張りを期待しています。

4年学科担任からの挨拶

4年生



あさと けんたろう
安里 健太郎

機械システム工学科4年

早いもので、15期生の学生の皆さんが入学してから4年目となりました。1年生の頃から機械システム工学科の学科担任を務めさせていただいていますが、学年を経ることに主体的に行動できる学生も多くなり、成長が感じられてうれしく思う次第です。

4年生は、進路を決定していくうえで非常に重要な学年となっており、その前哨戦となるインターンシップもあります。これまでは、与えられたものをこなしていくことが多かったと思いますが、インターンシップや進路活動においては、自分自身で進む道を見つけ出し、決定していくことが求められてきます。このことで、これまでとは異なる困難さに直面している学生も多いと思いますが、色々と考え、悩みながらも自分なりの答えを導いていくこの過程が、今後の自分自身の形成や将来につながっていきます。ただ、自分の中だけで閉じた状態では、この難題を克服していくことは大変苦しいところもあると思います。そんなときは、自ら行動し、他に頼ってみるということも大切です。まずは、身近にいる家族、友人、先輩、教職員に相談することから始めてみてください。



なかひら かつや
中平 勝也

情報通信システム工学科4年

情報4年生は、3年生の頃と比べると、学校生活では、日々の講義での受講態度が向上しており、レポート提出は自らの計画と管理をしてきちんと行えるようになりました。また、大きなイベントである企業や大学でのインターン活動は、学生の成長に大きくつながっているようです。希望するインターン先の企業や大学を探すのにあたり、将来の進路を真剣に考え始めるきっかけとなり、将来何をしたいのか、自分のライフプランはどのようなものかを具体的にイメージすることや、実際に企業や大学の方とメールやTV会議でやりとりする中で、プレ社会人としての責任感が増しています。教員と保護者の方々との接する機会として、TV会議や電話を使った学科懇談会と個人面談を行いました。学科懇談会では、学校生活やインターン活動の様子をお知らせし、各ご家庭での学生の様子や来年度の就職や進学希望先や準備についてお話し合いをしました。



バイティガ ザカリ

メディア情報工学科4年

4年生を対象とする必修科目「インターンシップ」があります。これは、各学科で学んだ理論、考え方を実際の社会において応用、実践することにより社会に貢献できる人材の育成を目指しています。その狙いは次の通りです。

- ・企業等の実態を理解すること。
- ・実践を通して、製造・開発・品質管理やサービスの内容等を理解すること。
- ・企業等における経営の仕組みと運営方法について理解すること。
- ・高専で学んだ知識が企業でどのように活用・応用されているのかを理解すること。
- ・企業が求めている人材とは何かを探り、自らの適性を考え、キャリアデザインに活かすことができること。

メディア情報工学科では「インターンシップ」科目の指導は主担任ではなく副担任が担当しています。今年度のインターンシップ期間は夏期休業中に行うことになります。

5月からインターンシップ先の希望調査を行いました。同月に43名全員と個人面談を行いました。まだ十分に将来について考えがまとまらず、大いに悩む時期だとは思われますが、就職を希望する学生は、遅くとも、インターンシップ研修が終了する頃までには、具体的な志望企業を決定し、企業研究を始めているくらいでなければ、就職活動において大変苦勞することになると思われます。

自分が志望する企業が、同業他社といったどのような点で異なるのか？何故その志望企業でなければならないのか？などの点をしっかり調べ、考えることが重要です。

今後とも保護者の皆様方に学生へのご相談へのご協力をよろしくお願いいたします。



はぎの わたる
萩野 航

生物資源工学科4年

生物資源4年生の皆さんは、1年生の頃と比べると凄く頼もしくなったなあと感じています。各所でリーダーシップを発揮する学生も多く、コミュニケーション力の向上が感じられます。そんな中で、新型コロナウイルス感染症の影響はとどまるところを知らず、県内の状況は悪化の一途を辿り、インターンシップや研修旅行にも大きな影響がありました。慣れない遠隔授業を受講し、課外活動も制限され、進路を考えるのも一苦勞で、かつてこの学校で学んだ私とは全く違う状況だなあと感じています。しかし“歳月人を待たず”と言うように、あっという間に卒業する日が来ます。卒業に向けて、また進路の決定に向けて、毎日地道な努力が重要です。生物4年の皆さんが希望する進路にすすめるように、出来る限りのサポートをさせていただきます。時には頼りない場面もあるかもしれませんが、今後ともよろしくお願い致します。

5年学科担任からの挨拶

5年生



もりざわ せいいちろう
森澤 征一郎

機械システム工学科5年

昨年度まで担任をされていた武村先生に代わり、担任となりました。ただ、進路関係は武村先生が中心に対応されているので、大きな変化はないかもしれません。

機械システム工学科5年生は41名在籍し、現在（2021年8月1日時点）において24名が進路を決め、他の学生も進学・就職活動を行っております。そのため、まだ多くの学生が県外への渡航する機会も多く、一定期間の自宅待機やコロナ禍の影響による休校と十分に登校できない不自由な生活を余儀なくされています。

一方で、教員側も遠隔授業や登校再開後の補習の実施などと、この不自由な中でもできる限りのサポートも行っております。加えて、最終学年になり、今までの授業・実習に加えて、卒業研究という形で各教員の個別指導により、機械工学各分野の課題に取り組んでいます。最後に担任としては、これらの内容を通じて地力を高め、卒業後の新たな進路先で活躍できるように巣立っていくことを願っています。



かめはま ひろき
亀濱 博紀

情報通信システム工学科5年

5年生は、進路が決まる重要な学年です。就職活動においては、コロナ禍における経済の落ち込みの影響を懸念しておりましたが、幸いにもIT・通信関連企業は大きく成長を続けており、特に大きな障害は感じられませんでした。オンラインでの就職活動が主となる中で、慣れない面接などをそつなくこなしていた学生が多かったように感じます。進学においては、大学への3年次編入が数名決まっており、専攻科への進学は10名と進学を選択した学生も多くおります。8月初旬の時点において、8割以上の学生の就職先・進路先が決定しています。早めに進路選択を行い、しっかりと事前準備・対策を行った学生から決まっていた印象です。

5年生での特徴的な活動として、卒業研究があります。沖縄高専で学んだことの集大成を発揮するまたとない機会です。収束の見えないコロナ禍でいろいろな制限がありますが、今しかできないこと、将来のためにやるべきことを大いに考え、知恵を振り絞って充実した最終学年を送っていただきたいです。皆さんを心から応援しています。



すずき たいさく
鈴木 大作

メディア情報工学科5年

新型コロナウイルスが猛威を振るう中、対面授業と遠隔授業の併用で授業を行いながら、就職活動や進学のための受験など、進路活動においても日々忙しく活動を行っています。進学ではこれまで通り大学に行き筆記試験や面接を受けていますが、就職活動では、新型コロナウイルスの影響があり、多くの企業がオンラインでの会社説明会や面接を実施しています。従来の対面での実施に比べると、会社の実態がつかみにくいなどの声も聞きますが、時間や費用を大幅に節約でき、多くのマッチングの機会を創出できるなど、多くのメリットがあることも事実です。コロナ禍の逆境の中でも学生一人一人が自己実現のチャンスととらえ、進路を勝ち取ってほしいと思います。

今年は2020年東京オリンピック競技大会が開催され、多くのアスリート達が培った技術を思う存分発揮しパフォーマンスを展開しています。メディア情報工学科5年生も、これまで培った専門知識や学生生活で得た経験をもとに、これからの人生が充実したものとなるよう、それぞれの立場で二度とない今のこの時を頑張ってもらいたいと思います。



いそむら なおこ
磯村 尚子

生物資源工学科5年

生物資源工学科5年担任の磯村尚子です。入学時から担任をしていた学生たちが本科5年生になり、時の流れの速さを感じずにいられません。コロナ禍により多くの学生が対面でのインターンシップが行えなかったにも関わらず、現在17名が進路を決めています。この後も進学・就職共に続々決定していけるよう、担任を始め学科全体でサポートしていくつもりです。

進路活動と共に、5年生は各研究室に所属して卒業研究を行っています。こちらもコロナ禍で思うように調査や実験ができない状況ではありますが、学生たちははできることから着手しているようです。卒業研究は本科での集大成ですので、まずは真剣に取り組み、成功も失敗も体験してほしいと思います。そして「卒研、やりきった!」という満足感と共に卒業してくれることを願っています。



専攻科の紹介

専攻科長
情報通信システム工学科
たから ひでひこ
高良 秀彦

専攻科は、本科の専門基礎教育課程の上に、2年間の専門技術教育を行うための教育課程です。専攻科生は機械システム工学コース、電子通信システム工学コース、情報工学コース、生物資源工学コースの4コースにおいて、深い専門知識を修得します。さらに、異なる分野の知識も修得し、実践性・創造性を兼ね備えた複合領域にも対応できる幅広い視野を身につけた技術者を目指しています。

専攻科1年生の前期では、PBL授業として「創造システム工学実験」を行いました。課題発見から議論、提案、発展、解決のプロセスを学ぶエンジニアリングデザイン教育を実施し、設計、製造、工程管理、予算管理などで実践力を養うことを目的としています。今年度は、新型コロナ対策として、対面せずにオープンキャンパスの内容を提供するオンラインシステムの構築や、名護市の沖縄フルーツランド様とのゲームのリメイク（手で触れないペダルスイッチ）に取り組みました。また、浦添市と連携して桑の実から果汁を搾汁した後の残渣の有効活用に取り組み、小・中学生を対象とした模擬授業（発電の仕組み、サイフォンの原理、ガウス加速器等）を創造し実施しました。

2年生は、学位授与機構の学修総まとめ科目である「特別研究Ⅱ」に取り組んでいます。「研究」は誰も到達していない未知の領域への挑戦ですので、試験のように答えは用意されていません。失敗や計画通りにいかないことも少なくありません。自分で答えを見つけるために、課題解決のための研究計画を立案・修正し、自主的に研究を遂行できること、これまで学んだ知識を総合し問題解決ができることが求められます。

専攻科には、その他にも国内外の長期インターンシップ等の特徴的なカリキュラムもあります。専攻科におけるこれらの経験を通して培われた、創造的思考力、エンジニアリングデザイン能力、実践力、自主性が、今後の進路となる大学や社会で大いに発揮されると期待しています。

今春、専攻科からは、24名の先輩たちが新しい進路へ歩んで行きました。彼らが努力して学んできたことは新たな世界で実を結ぶでしょう。皆さんも将来の自分を信じて、一歩ずつ前に進んでください。



1年生クラス紹介

～2021年4月に沖縄高専に入学して感じたこと～



きんじょう こ はる
金城 小遥

メディア情報工学科



やまじ か のん
山地 禾恩

生物資源工学科

私たち1年1組は、キュートな和多野さんと、ダンディーな山内先生、そして43人の美男美女から構成されています。担任である和多野さんは、雨にも負けず、風にも負けないその天使的な笑顔によって私たちを笑顔にしてくれます。副担任の山内先生は、言うなれば強力な助っ人です。和多野さんがいないときにどこからともなく現れ、私たちのことを見守ってくれます。

1年生で一番楽しいクラスだといってもいい気がします。個性豊かで賑やか。それぞれ互いにクラスメイトと関わり合いクラスの均衡が保たれています。何といっても面白い人が多い！男女の仲も良く、楽しむときにはクラス全員全力で楽しむのも特徴の一つですね。

スポーツが良くできる人や勉強が良くできる人がたくさんいます。1組は体力テストの成績も、小テストなどの成績も高く、文武両道という言葉が似合う人がたくさんいます。小テスト前などは勉強を教え合っているのをよく見ます。分からないところを互いに教え合うことで苦手を克服する人も多いです。頭が良くて、スポーツができて、面白い人たちの集まり。最高ですね！



いたばし ゆう た
板橋 悠汰

生物資源工学科

僕は、高専に入ってしまった事は3つあります。

まず、1つ目はゲームが好きな人が多いことです。高専はスマートフォンの持ち込みが許可されているので、休み時間にゲームを楽しむ人の姿が見られます。休み時間が長いので勉強をする人ももちろんいます。

2つ目は、授業が楽しいことです。先生が個性的なので授業に飽きることはないです。でも、成長期のせいで寝てしまう事もあります。これはコーヒーなどで対処します。私のクラスでは、寝ている人を起こす雰囲気があります。助け合って生きています。

3つ目は、専門的な科目があり、その授業も楽しいことです。機械科は、溶接や旋盤などをしているそうです。メディア・情報通信はプログラミングなどを行っています。僕が所属している生物資源工学科では、実験結果の分析のために使うプログラミングを学ぶ基礎プログラミングとバイオテクノロジーの基礎を学ぶバイオテクノロジー基礎実験などがあります。後期からは、基礎化学が始まり勉強がどんどん楽しくなっています。バイオテクノロジー基礎では、無菌操作やクロマトグラフィーなどを行っています。

まだ入学して3か月ですが、入ってよかったと思っています。



なかむら ゆう か
仲村 優佳

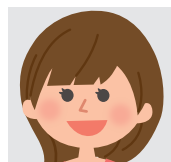
メディア情報工学科

私たち1年4組は、計42名のやんちゃで明るい人が多い男女仲のいいクラスです。また、他クラスとも親交があり休み時間には多くの人が遊びに来るので、いつも賑やかで楽しい雰囲気です。羽目を外しすぎてしまう部分もあるのですが、それをうまく学級委員がまとめてくれています。

はじめは、席の近い人同士でしか仲良くありませんでした。ですが、担任の崎原正志先生がゲームなどを企画してくれたため、すぐにクラス全体で仲良くなることができました。

私たちクラスは積極性があまりないと先生に言われることもありましたが、高専祭のクラス企画の話し合いでは、学級委員がグループ分けを行うなどみんなが意見を出しやすいように工夫してくれたおかげで自由で4組らしい個性的な意見が出ました。

まだ高専生という自覚が持てていない部分もありますが、みんなで一致団結して高専祭や体育祭を成功させられるように頑張っていきたいです。



とうま かず よ
當間 一代

情報通信システム工学科

高専に入学して、あっという間に前期が終了しました。私が沖縄高専に入学して感じたことは、大きく分けて3つあります。

一つ目は、学習面で切磋琢磨し努力しようと思えたことです。高専に入って、数学が得意な人や機械に強い人が多いことに圧倒されました。そのため、分からないことがあったら友達や先生に聞き、良いことをたくさん吸収するようにしています。

二つ目は、沖縄高専の特色に、より魅力を感じました。入学当初は、90分授業に慣れることが大変でした。しかし今では、専門的分野を深く学ぶことができ、高専ならではの魅力だと実感しています。

三つ目は、寮生活を通し、集団で過ごすことの厳しさを感じました。寮では、点呼やごみの分別、スケジュール管理の大切さが求められます。そのおかげで、規則正しい生活の習慣化や限られた時間を有効活用する力が養われました。

これから、友達や家族を大切に、広い視野をもって技術者になれるよう頑張りたいです。

2年生クラス紹介

～2年生に進級して感じたこと～



いちば ともや
市場 智也

情報通信システム工学科

2年1組に所属している、情報通信システム工学科の市場智也です。

私たちのクラスは、勉強も運動も活発で笑顔が絶えません。担任の島尻先生はとても楽しい先生で、学生と仲が良く、何でも相談に乗ってくれます。

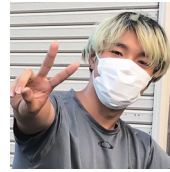
私達は、去年の大半が遠隔授業だったことで、友達作りづらく、勉強のペースをつかみづらいなどの悩みがあったのですが、友達や先生が補助してくれたので、問題なく乗り越えることが出来ました。

ここまでは、普通高校でも十分持っている部分だと思うので、ここからは2年生になって、本格的に対面授業が始まってから感じた高専の良い点を紹介します。まず、変わった人が多いです（もちろんいい意味で）。

中学の時だと、仲間外れになりがちな学生でも自分の居場所を見つけて楽しめます。

また、自分のやってみたいことは先生にお願いすると、創造研究として研究することができ、必要な道具等の購入を検討してくれたりするので、自分で学ぶのに比べて専門的な知識を伸ばしやすい環境だと思います。

最後に、まとめとして高専は、自分の「やりたい！」を伸ばす環境が整っています。しかし、目標がないと少し勉強が辛くなることがあるので、もし入学するなら「〇〇したい！」などの目標を持つといいと思います。以上です。



こうとう よしき
後藤 慈貴

機械システム工学科

2年2組機械システム工学科の後藤慈貴です。

2年2組は、というよりも2学年は、去年新型コロナウイルスの関係で、イベントはおろか、授業は遠隔であったため、人間関係や学校生活にたくさんの不安があったと思います。

ただ、そんな不安とは裏腹にみんな協力し合い、授業中にうるさくなることもなく、とてもまじめなクラスだなと思います。

担任の吉居先生は、数学が大好きで、いや好きすぎてたまにLHRに数学をしてしまいます。面白いですね。

さて、これから2学年初のイベントにして沖縄高専最大のイベント、そう、高専祭が始まろうとしているわけですが、正直不安でいっぱいです。

まず、この高専だよりが高専祭より前に作られるのか、ということはどうでもいいのですが、高専祭自体が初のイベントで、しっかり協力してやり遂げる、成功することは出来るのかということです。あとはコロナ。

この高専祭を機にさらに皆の仲を深め、より良いクラスになればいいなと思っています。



いちむら にっ き
市村 日喜

生物資源工学科

纏わりつくような暑さも徐々に薄れ、高専祭も日に日に色味を増す時期になりました。

マスクと呼ばれる、ただ薄い布一枚の隔たりが生んだどうしようもない疎外感や、液晶を介さなければ、友人やクラスメイトとまともに繋がることが難しかった時間から、こうして対面で授業を受けられる、この日常のありがたさを身に染みて実感しています。

さて、去年の遠隔授業で、少量の定期テスト代替レポートに慣れ切っていた私たちは、小テストや中テストが数個続いただけで息が上がりそうな思いをしています。（対面授業に戻って結構な時間が経過している・・・のに・・・）

もちろん、定期テスト直前に余裕の表情を浮かべている友人も大勢居るのですが、そういったクラスメイトの勉強量や探求心を目の当たりにすると、自分ももっと頑張らないといけないなあと感じます。クラスメイトに限らず、いろいろな人に影響を受ける機会が普通高校よりも格段に多いというのも、高専の魅力の一つではないでしょうか。

これからさらに周りの人との関係が深く広がると思っています。その中で様々な考え方に触れることで、学校生活をより良いものにしたいです。



た なか のえる
田中 柊

メディア情報工学科

2年4組メディア情報工学科の田中柊です。進級してしばらく経ちますが、長かった遠隔授業期間のせいか、今だに一年生のような気がします。この現状に、きっと多くの学生が、足止めをくらったような心境でしょう。

例年通りとはいきませんでした、一年と少し学生として過ごし、色々と分かってきました。

まずは学内の雰囲気です。入学当初は校舎や寮に、どこか別世界のようなイメージを抱いていましたが、いざ通い始めてみると、別にそんなことはなく、そこそこに明るい健全な学内でした。多分普通の高校と大差ないのではないのでしょうか。学生、先生方共にキャラが多少濃いですが、個性に寛容な場なので、クラスでも、それなりに仲良くやっていると思います。

先輩方も優しく、私自身、度々お世話になっています。部活や課外活動ができるようになれば、先輩方はもちろん、後輩とも交流できればいいなと思っています。

先輩方の中には、プロジェクトや研究をされている方も多く、私を含めて、刺激を受けているクラスメイトが多く居ます。今は何かと行動が起こしづらい時期ですが、焦って思い詰めに気楽に構え、少しずつできることをやっていくのも、悪くないと思います。

3年生クラス紹介

～3年生に進級して感じたこと～



みよし りょうじ
三好 亮爾

機械システム工学科

こんにちは、機械システム工学科3年の三好亮爾です。3年の機械は、男子36名、女子3名、計39名です。今年から新たに2名の仲間が加わりましたが、まだコロナの状況もあって留学生が1名、来日できてない状況です。

このクラスはとてもノリがよく、個性の強い人が多いクラスです。日々、大量の課題が出されていますが、ぶつぶつとみんなで文句を言いながらどうにか片付けています。今までの2年生のクラスの構成と違って学科ごとでクラスが割り振られているため、より、互いの仲を深めています。

学年が上がるごとに専門科目の教科数が増え、学習している内容も難しくなっています。コロナ禍で色々やりにくい状況ではありますが、互いに情報を交換したり、教えあったりして乗り越えています。

コロナウイルス対策を徹底した上での対面授業なので、慣れない事があったり、急に遠隔授業になったりするなど、大変なことがたくさんありますが、今は対面授業で直接先生方に教えてもらったり、直接友達と会えることができたりしていることへの感謝の気持ちを忘れずに勉強に取り組んでいます。行事もたくさん予定されていますが、実施されるかわからない状況です。実施されることを願ってみんなで毎日楽しみながら、頑張っています。



いしき しんのすけ
伊敷 真乃介

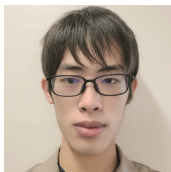
情報通信システム工学科

こんにちは、3年情報通信システム工学科の伊敷真乃介です。

僕は今、創造研究で個性豊かなメンバーと一緒に、様々なコンテストに挑戦しています。テーマは主にAIに関するもので、画像認識を使って魚を見分けるソフトを開発しています。

昨年はコロナの影響により長い期間遠隔授業をすることになり、あまり学校に行くことが出来ませんでした。そのため、高専祭や体育祭、1年生歓迎会などの楽しいイベントがなくなってしまいました。そのため、今年こそは開催しようと、高専祭や体育祭、イベントなどを開催するために先輩から後輩みんなで頑張っている。

沖縄高専では、あっと驚くようなことが毎日のように起きるため、とても楽しい学校だなと感じながら、先生達から出される大量大量のレポートや課題に取り組み時間があつという間に過ぎてしまいます。課題やレポートはとても大変ですが、クラスみんなで協力しながら終わらせようと頑張るので、「一人で頑張ってる」というより「みんなで頑張ってる」という感じで、クラスみんなで団結して頑張っている。これから、卒業まで一緒に過ごすクラスなので、楽しいクラスにしたいです。



やまかわ ようすけ
山川 陽亮

メディア情報工学科

こんにちは、メディア情報工学科3年の山川陽亮です。3年生にもなってくると各学科の色が強くなり、最近是他学科の人と専門の話が通じないことも多くなってきましたね。高専で学んでいくうちに専門知識が増えてきたのかな、と思います。

新型コロナウイルスの影響で、少し前では考えられなかったようなこともオンラインで開催されるようになりました。私の夢は、これらがさらに進化して、リアルとバーチャル、フィジカルとメンタルの融合が今以上に進んでいくような、時代の変わる新技術を開発することです。そのために、今はコンピューターやネットワークの構築・プログラミングを行っています。

これは私達人間が普段から行っていることを観察し、それを事細かく説明するという作業です。コンピューターはわからず屋なので、何もしてくれないことや想定外の行動を取ることは日常茶飯事です。ですがそれ乗り越えて開発するということは経験になりますし、何より楽しいですね。

私の夢を実現するためにも、今後も沖縄高専で頑張っていこうと思います。



きやん はるも
喜屋武 春萌

生物資源工学科

昨年は遠隔授業の期間が長く、例年よりも基礎が固まっていなかった状態で3年生に進級しました。3年生の授業は、1、2年生の授業の応用がたくさんあります。私は、3年生に進級した時の頃、授業についていけるか不安でいっぱいでした。私のクラスの生物資源工学科3年生は、男子16名、女子20名で男女比が良く、活発に話し合いや教え合いができるクラスのため、クラスで活動しているうちに学業に対する不安が消えていきました。

私は、昨年できなかったことを今年は絶対にやりたいと思い、今は、創造研究や部活、高専祭副実行委員、体育祭実行委員などの様々な活動を行っています。私自身、今まで先輩たちが活動しているのをただ見ていた傍観者でした。ですが、今年からは自分が見てきた、いるような活動を行っている“カッコいい”と言われる先輩を目指し、何事にも全力で取り組んでいこうと思います。今年もまだ新型コロナウイルスの影響で普段通りの生活に戻るのには難しいですが、その中でも自分ができることを一つずつ増やしていきたいです。

私達3年生生物のクラスには、寮や学生会、高専祭の副局長、体育祭の副組長たちがたくさんいるので私達を中心に沖縄高専全体を盛り上げていけるように頑張っていきたいと思っています。

学生会より



やまうち こうりゅう
学生会長 **山内 弘竜**
4年 機械システム工学科

昨年度は新型コロナウイルスの影響により、例年のように他学年が交流するイベントを開催することができませんでした。そのため、1・2年生は入学してから、高専祭や体育祭などといった行事も経験していません。そこで、今年度は、昨年度行えなかった学生会のイベントを一つでも多く実施したいと考えています。

具体的に、今年度予定していることをいくつか紹介します。

まず、主にイベントごとを運営している総務局では、1月にスポーツフェスタ、年度末に宝探しの開催を考えています。スポーツフェスタ（通称スポフェス）は毎年行っており、学生の間でも人気のイベントです。今回のスポフェスはバレーボールでの実施を考えており、これを機会に他学年や交流のなかった人たちと仲良くなる良い機会になると考えています。

宝探しは、学校の至るところに隠された宝を仲間と協力し、謎解きなどの試練に挑戦しながら探していくイベントです。

次に、主に学校の風紀を管理している風紀局では、辺野古のビーチ清掃などの地域清掃を実施する予定です。この地域清掃では、他学年と交流しつつ、私たちが日ごろ生活している地域の自然や良いところを感じられる良い機会になると考えています。

今年度の学生会は、コロナ禍の中でイベントなどを行うのが困難な状況でも、工夫を凝らしながら積極的に全学年がコロナ禍でも安全に楽しめるようなイベントを開催できるように頑張っていきます。

最後までお読みいただきありがとうございます。

学生会一同

前期	4月	5月	6月	7月	8月	9月
総務	部活紹介					
会計	・月次報告書と預金出納簿の作成・提出（毎月） ・部・同好会への部費配布・回収（毎月） ・収入・支出決議書の作成（収入・支出が行われた場合に作成）					
広報				学生会HPを復活	・学生会新サイト作成 ・月報作成開始	
風紀					校内清掃	

後期	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総務	プレゼン大会	交流会	ご飯コンテスト	スポフェス	宝さがし	
会計		高専祭準備時にベンキの貸し出し				・年度の決算報告書の作成、報告
広報						
風紀	校内清掃	校内清掃		地域清掃（辺野古ビーチ）	校内清掃	



校内清掃の様子



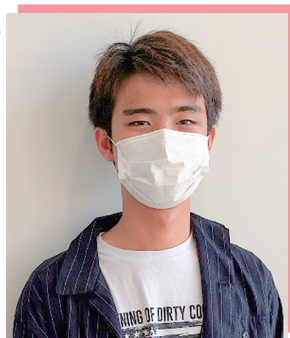
R3年度 学生会

寮生活会より



うえざと ひな た
上里 日那多

4年 生物資源工学科



あさと きょうへい
安里 匡平

3年 生物資源工学科

今年度がスタートしてもうすぐ半年が経とうとしています。しかし、新型コロナウイルスの影響もあり例年通りのイベントもうまく行えていなかったり、規則が増えたりして寮生のみなさんは、楽しい寮生活を過ごせていないかもしれません。

そこで、密を避けながら開催できるイベントを考えたり、寮生みんなの不満・不安を解消すべく、アンケート調査を行ったりしてきました。アンケート結果の反映はまだできていませんが、少しでも多くの人の不満が解消できるように動いていきたいと思っています。

女子寮では、新入生研修を開催しました。新入生が高学年と楽しく雑談をする懇談会のような内容で、短い時間でしたが、他学年とのコミュニケーションをとるいい機会になりました。

また、指導寮生や保健衛生委員など、たくさんの寮生活会委員に協力をしてもらい寮を運営しております。他の委員会の方には、例年通りいかずたくさんの苦勞をかけています。負担の大きい委員会も多々あるので、仕事量の均等化をはかっていきたいと思っています。

現在、昨年度がほとんど遠隔授業だったという事もあり、各委員会の引継ぎがうまくいっていない状況です。そのため、今年度は次の世代にきちんと仕事を引き継げるよう、「情報の見える化」を目指し、各委員会でのマニュアル作成などを行いたいと思っています。

後期はさらに活動していけるよう寮生活会一同頑張っていきますので、これからも沖縄高専学生寮をよろしくをお願いします。

4月：入学式、開寮式	10月：避難訓練、月例清掃
5月：新入生歓迎会、特例清掃、月例清掃	11月：月例清掃
6月：特例清掃、寮見学	12月：閉寮前大清掃、閉寮式
7月：オープンキャンパス、寮見学ツアー	1月：開寮式、月例清掃、寮祭
8月：閉寮式、閉寮前大清掃	2月：閉寮前大清掃、閉寮式
9月：開寮式、寮見学ツアー	3月：入学説明会

※コロナ禍より変更有



4月新入生研修



4月新入生研修

航空技術者プログラム紹介



たにふじ しょういち
谷藤 正一

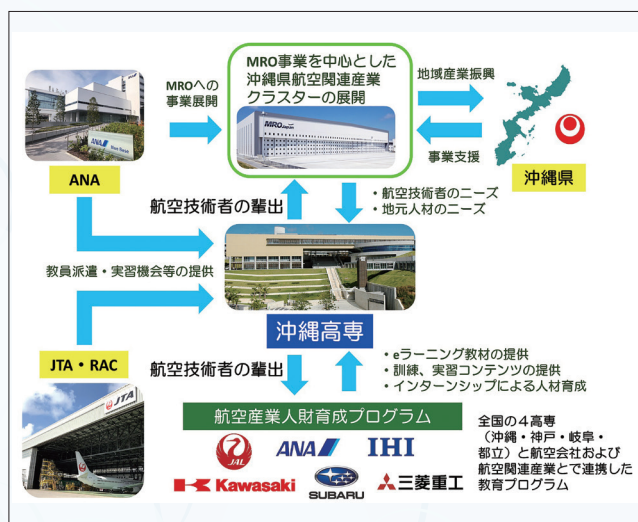
情報通信システム工学科

1. 教育概要及び昨年度の就職実績を紹介

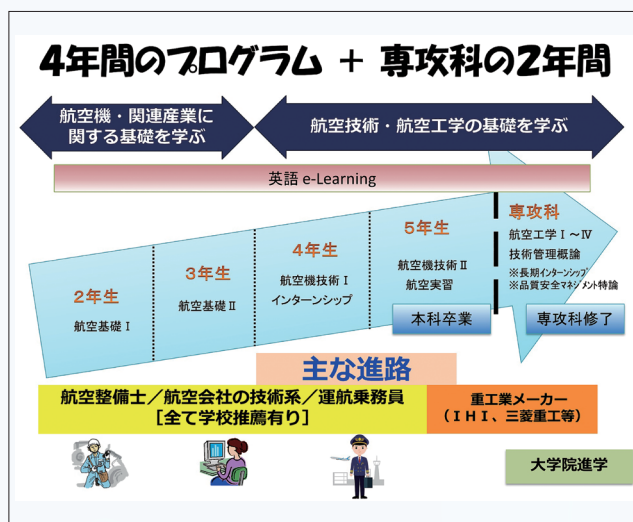
航空関連産業は、力学、材料、流体、熱、電気・電子、情報処理などの多くの先端技術が結集した産業領域であり、官民を挙げて自動車に次ぐ基幹産業への期待も高まっており、高専の様々な実践的教育が貢献できる分野でもあります。沖縄県においても島嶼地域の地理的環境にあって、航空関連分野が新たなリーディング産業として期待されています。その中で、本校は、地域振興に貢献すべく航空産業に人材を輩出していくことが高等教育機関としての役割の一つとして考え、平成27年4月より『航空技術者プログラム』を設立しました。地域の航空会社や全国の航空関連企業とも連携して、座学ばかりでなく実習も交えたカリキュラムが設定されており、今後の人材不足が予想される分野における裾野拡大や人材の育成に関して先駆的で独創性のある取り組みと言えます。プログラムの開始以前は、沖縄高専から航空関連産業に輩出した学生は僅かに2名でありましたが、プログラムの設立から昨年度まで39名を送り出しています。特に昨年度の厳しいコロナ禍にあっても、4名が航空会社に内定しており、業界におけるプログラムへの高い期待が伺えます。

航空技術者プログラムの新たな展開について

これまで航空技術者プログラムは、本科4・5年生と専攻科1・2年生の4年間のプログラムで“航空機整備”に重点を置いた内容となっていました。既に6年が経過し、多様化する航空業界および学生のニーズに応えるべく、来年度からは航空関連産業分野を広く学ぶことができるカリキュラムとして、2・3年生で「航空機・関連産業に関する基礎」を4・5年生で「航空技術・航空工学の基礎」を学ぶことができる新しいプログラムに再編することになりました。さらに勉強したい学生のために、オプションとして1年生の後期からJTA派遣講師による特別講義や専攻科の2年間の課程も継続します。この専攻科までのプログラムを継続した学生はRACのパイロット養成制度である「運航乗務員候補者養成（奨学金貸与）制度」に推薦できることになりました。また昨年度からは、全国の4高専と、航空会社・重工業メーカー（6社）および国土交通省・経済産業省・文部科学省の産学官が連携したオールジャパン体制での航空機製造・整備技術者の育成をする取り組みである「航空人財育成プログラム」にも参画しています。このような様々な連携によって、これまで以上に幅広い学修はもちろんのこと、より多くの進路を選択することができるようになります。



実施体制



新しいカリキュラム

キャリア教育センター活動紹介



つむら たくや
津村 卓也

キャリア教育センター長

キャリア教育センターは、本校学生のキャリア形成と学生及び卒業生の進学・就職活動を支援することを目的として設置されています。学生のキャリア形成の目標は、学生が自己分析・自己理解を進め、インターンシップなどを通じて社会やさまざまな職業を理解していくことで、自分の進路を自分で決定できる能力を養うことにあります。これを支援するため、キャリア教育センターではキャリア教育基本プランの策定と毎年のキャリア教育プランの計画を行い、これに沿って担任の先生や、グローバル交流推進センター、地域連携研究推進センターなどの学内組織、企業・団体等と連携しながら、各学年に対して学生のキャリア教育に取り組んでいます。

昨年度の実績について

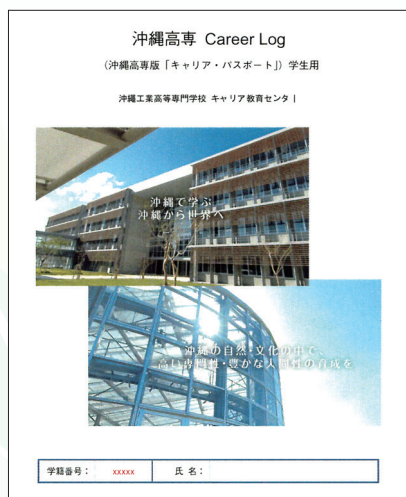
昨年度は、令和2年度キャリア教育プランで予定されていた講演会やセミナーの一部中止、オンライン実施以外のインターンシップ実習の中止、研修旅行の実施見送り、その他行事のオンライン実施など、世界的な新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大の影響を大きく受けました。

このような状況の中、体育館アリーナで例年実施されていた合同研究会を、令和2年12月2日と9日の午後にMicrosoft Teamsを利用したオンライン形式で実施し、第1回：60社、第2回：58社（県内企業21社、産学連携協力会員企業18社）の企業が参加されました。合同研究会の冒頭で実施していた1分間スピーチに代わり、学生に参加企業が作成したショートプレゼン動画を事前視聴して貰い、どの企業の動画が良かったか1位から3位まで順位を決めるアンケートを取り、各回の上位3社に「ショートプレゼンテーション賞」をお渡ししました。



4年生：身だしなみ・メイク/ビジネスマナー講座の様子（Teams配信画面）

今年度の新たな取組について



沖縄高専 Career Log
(沖縄高専版「キャリア・パスポート」)
学生用表紙

今年度は、本科生のうち3年生は社会人基礎力自己診断シート、4年生はジェネリックスキル自己診断シートを実施、また本科生の全学年で『沖縄高専 Career Log（沖縄高専版「キャリア・パスポート」）』に年2回、学生自身に記録をしてもらうことになりました。このキャリア教育実践ツールである沖縄高専 Career Logを軸に、キャリア教育基本プラン・長期計画・年間スケジュールの見直しを図って参ります。

今後も新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響は続くともみられます。「高専の学びを安全に提供する」観点で、教職員だけでなく多くの企業・団体の方や卒業生などにご協力頂きながら、キャリア教育と進路支援を継続して参ります。

地域連携研究推進センター活動紹介



すずき たいさく
鈴木 大作

地域連携研究推進センター長

本校では、地域連携研究推進センターを窓口にして、本校の有する人的資源、知的資産、施設を活用して、地域社会との緊密な連携や交流を推進することにより、地域社会における人材の育成、科学の発展、技術開発及び産業の活性化に貢献するとともに、地域課題の解決を支援する活動を行っています。主な活動内容として、毎月定例の技術相談会の開催、企業技術者等との懇談会、沖縄高専フォーラム等の実施、共同・受託研究、受託試験、技術相談（随時）の受け入れを行っております。さらに地域の各種イベントへ出展し、本校の教育研究内容を発信しています。

昨年度の実績について

令和2年10月にうるま市・金武町・宜野座村の小中学生を対象に「沖縄高専体験授業2020」を実施しました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため3市町村での分散開催で、今回初めてWeb体験授業を実施するなど新しい取り組みも行いました（本校Webサイトより視聴可能）。また、名護市×浦添市市制50周年企画コラボ商品であるスパークリングカクテル「Cheers!」（チアーズ）のネーミング&ラベルデザインや、JTA及び名護市十字路商店連合会とのコラボレーションによる「JTA×沖縄高専75BEER飲み比べセット」の化粧箱デザインなど、本校の学生の活躍が目立ちました。令和2年12月には『withコロナ・afterコロナ』をテーマに、「第16回沖縄高専フォーラム」をオンラインにて開催しました。



「Cheers!」のプレスリリース



沖縄高専体験授業 2020



産学連携協力会との活動実績

沖縄県内の経済・産業界を中心に、本校の教育・研究活動を側面から支援するとともに、産学間の共同研究を推進し、産業振興に寄与することを目的に「沖縄工業高等専門学校産学連携協力会」を設置しています。現在、県内外の113の企業、団体会員及び25の個人会員で組織しています。

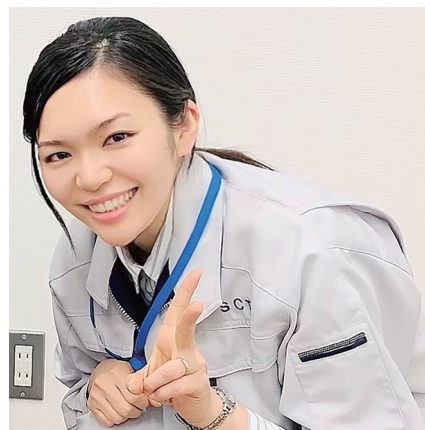
令和2年12月には産学連携協会員企業19社を含めた100社以上の企業による「沖縄工業高等専門学校オンライン業界研究会」を開催しました。本研究会は学生のキャリア教育の一環として開催し、参加企業による業界、会社概要等の説明を通して、学生の職業意識の高揚に資するとともに、各業界、企業の理解促進につながりました。

OB・OGの 活躍の様子

ねろめ はづき

根路銘 葉月

超臨界技術センター株式会社



こんにちは。沖縄高専1期生の根路銘葉月です。私は生物資源工学科を卒業した後、熊本大学工学部に3年次編入し、大学院修士課程を修了後、名古屋大学大学院にて学位を取得しました。その後、福岡大学の助教を経て、現在は超臨界技術センター株式会社という名古屋大学発のベンチャー企業で開発の仕事をしております。

超臨界技術センターは2013年に設立したばかりの新しい会社で、食品・化粧品・医薬品などのメーカーからの依頼を受け、有機溶媒の代わりに「グリーン溶媒」と呼ばれる人体にも環境にも優しい超臨界二酸化炭素を用いて、食品や化粧品材料の加工や天然物からの機能性成分の抽出／精製分離に関する技術開発やスケールアップ検討、受託生産を行っております。私はその中でも、近年メディアでもよく取り上げられるようになったデカフェ（カフェインレス）コーヒーのプロセス開発に2016年から取り組むことになりました。

高専生でもコーヒーをテスト勉強の際に「眠気覚まし」として飲むこともあると思いますが、それはコーヒーに多く含まれるカフェインに覚醒作用や疲労回復作用があるためです。一方で、過剰摂取した場合には、不眠やめまい、吐き気などの健康被害をもたらすことや、妊娠中に摂取すると胎児に影響があることが報告されています。そのような理由から、コーヒーからカフェインを取り除いたデカフェコーヒーが注目されるようになりました。そんなデカフェコーヒーですが、コーヒー豆からカフェインを除去すること自体は技術的に難しいものではありませんでした。しかし初めて試作して出来たものは、カフェインは除去されているものの、コーヒーの特徴的な他の成分も同時に抽出されてしまっており、色・香り・味の全てにおいて薄く、お世辞にもコーヒーといえるようなものではありませんでした。コーヒーは嗜好品で香りや味が重要なため、カフェイン除去をクリアしつつ風味を維持することが非常に難しいところでしたが、試行錯誤しながら試作試験を重ね、全工程を最適化し、ようやく風味を維持したデカフェ処理ができるようになりました。

超臨界技術センターで開発されたこのデカフェ技術は「GREEN DECAF PROCESS®」と名付けられ、2020年には



現在の根路銘葉月さん

デカフェ専用工場も完成し、日本で初めて超臨界技術を用いたデカフェ技術が実用化されました。ここまで長い道のりではありましたが、小さなベンチャー企業だからこそ、ラボスケールでの技術開発から、試作品の製造、スケールアップ検討、生産機・工場の設計、そして実用化までを一貫し行うことができ、学ぶことも多くありました。それぞれのステージで何度も大きな壁にぶつかりましたが、その度にチームで協議し、力を合わせて乗り越えていきました。このプロジェクトを完遂できたのは、心強いメンバーがいたからだと思っています。この工場ではコーヒー豆のデカフェ受託加工に加え、自社製品であるデカフェコーヒー「DECACO」を製造・販売しています。現在、デカフェ事業は親会社の株式会社ケー・イー・シーに移管され、超臨界技術センターとしては技術部門として携わることとなりましたが、今後は工場の効率化や稼働率を上げるための技術開発を担当し、エンジニアとして更に励んでいきたいと思っています。

GEAR5.0の紹介

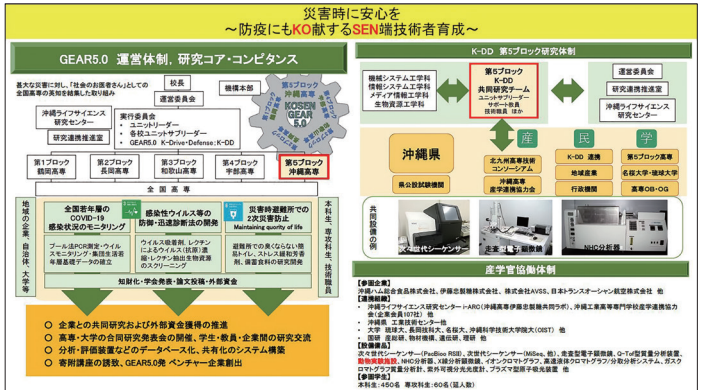
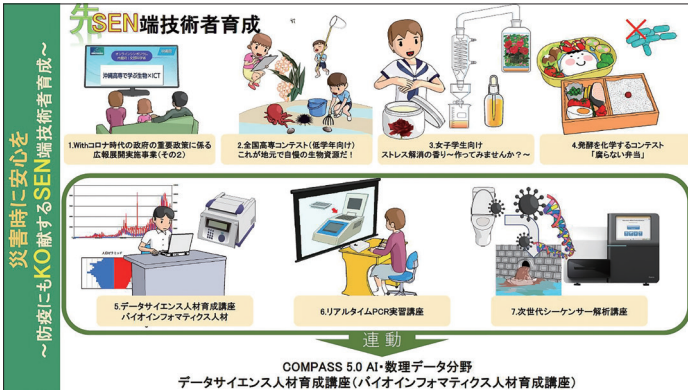
沖縄高専では、「KOSEN テクノロジーを結集した防災減災の研究・教育」を事業テーマとして、鶴岡高専、長岡高専、和歌山高専及び宇部高専の4高専と連携を図りながら災害時に安心を与え、防疫にも貢献する先端技術を研究し、技術者の育成を進めています。

KOSENテクノロジーを結集した防災減災の研究・教育

災害時に安心を
～防疫にもKO献する
SEN端技術者育成～

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



沖縄高専ブランド泡盛「香仙(こうせん)」は、2011年から津嘉山酒造所の指導のもと、沖縄高専生物資源工学科の学生(5年生)が中心となり夏休み期間を利用して醸造した泡盛で、毎年12月に名護市内で限定販売しています。香仙は、泡盛醸造工程の全てからビンの充填、ラベルのデザイン、ラベル貼りまで沖縄高専の学生が行っています。

歴代の香仙



(問合せ先)

沖縄工業高等専門学校 総務課総務係

TEL : 0980-55-4003 Mail : ssoumu@okinawa-ct.ac.jp